

保育者における絵本の選定

— 5領域を育むための一考察 —

Picture book selection by nursery school teachers
: A discussion to foster five areas

宮 津 寿美香*
Sumika MIYATSU

要 約 本研究は、保育者による絵本の選定から5領域を育むための絵本について考察をした。対象園は、5園であり41部のアンケートが分析対象となった。分析は大きく、①5領域を育むための各園の取り組みについての特徴と気付き、②各領域に共通した絵本と複数領域であげられた絵本、③年齢ごとの違いの3つの視点で行った。①については、どの園でもリトミックや遊びなど各々の教育方針に伴い、5領域を育んでいることがわかった。②については、ほとんどの領域が他の領域を兼ねていたが、「健康」のみが他の領域と一緒に挙げられないことがわかった。③については、年齢が低いと、リズムカルな言葉や、擬音語・擬態語が使用されている絵本が多く選ばれているが、年齢があがるにつれ、より複雑なストーリー選ばれやすいことがわかった。

キーワード：絵本、5領域、保育者

Abstract This study discusses picture books selected by nursery school teachers to foster five areas. An analysis was primarily conducted from 3 perspectives. First, characteristics and awareness of the five areas were determined at 5 nursery schools. Second, picture books in multiple areas and common to areas were identified. Third, differences in the age of the intended audience were identified. Every nursery school used books in the five areas. 'Health' was not cited along with other areas. Picture book selection differed by age of the intended audience.

Key words : Picture book, Five areas, Nursery school teacher

1. 背景

1-1 乳幼児期における教育

小中高における指導要領が改訂され、学校教育を通じて身に付けるべき資質・能力や学ぶ内容などの全体像が分かりやすく見渡せるように改善された。一方で乳幼児期を対象とし幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、これら3つについても内容が改訂され、特に発達

の初期段階を対象とする保育所指針に「教育」という言葉が加わったことは注目されている。つまり、発達の早い段階から養護と共に教育的な関わり方が保育者をはじめとした大人に求められている。

具体的な関わり方として保育は5領域がある。この5領域は乳幼児期が終わるまでに育ってほしいとされる、いわば保育の目的となるものである。5領域は教育のベースとして小学校以降においてもつながられるものとされている。したがって、乳幼児期の様相や発達を知ることは校種を問わず重要な意味を成すと考える。

* 長崎大学教育学部
NAGASAKI University, Department of education

1-2. 本研究の目的

これらの5領域を育むため手段として、戸外で体を動かすことや生活に必要な活動を自分ですること、自分の気持ちを伝えるようにする等が考えられ、多くの場合遊び中で取り組まれているが、5領域を育むために具体的に、どのように保育を行ったらいのかまたは難しいという保育者の声もある(片山ら, 2009)¹⁾。また、各保育現場で様々な取り組みがされていることは予測されるが、園同士における情報の共有・交換が不足していることも事実で、「他園の取組みについて知りたい」という声もあり(開, 2018 など)²⁾。本研究におけるアンケートでも同様の声があった。さらに5領域は各領域を単体として捉えるのではなく、総合的に捉えることが多い。そこで、本研究では5領域育み方への一つの試みとして、子どもにとっても保育者にとっても身近な玩具であり、児童文化財でもある絵本を対象として、5領域を育むためにどのような絵本選定すれば良いか考察することを目的とする。これまで絵本についての研究は数多くなされてきたが、子どもの心身の発達に関係する5領域と、絵本がどのように関係するののか等の検討はない。また、本研究を遂行することは、保育実習等子どもと関わる機会のある学生への事前準備をして、参考となり有意義であると考えられる。

1-3. 絵本の役割

本研究では、5領域を育むための手立ての一つとして絵本を使用する。理由としては1-2でも述べた通り、子どもに身近なものであり、保育現場でも家庭においても子どもはよく絵本を手にする。現状では、研究上の絵本の明確な定義は確立されていないが、緩利(2016)³⁾によると、①絵と文章が見開き2頁で掲載されているもの②絵をみることに加えて文章を聞くこともしくは読むことによって総合的に内容を理解するもの③作者が子どもの健全な発育のために何らかの意図のもとに創造し、公刊された作品であること、を定義としている。絵本は子どもが出会う一番初めの本である。絵本の役割は、絵があることによって子どもの想像力を養うことや理解力をつけることが考えられる。

さらに絵本は読むだけではなく、活動の導入に使うなど、遊びを誘発する役割もある。例えば、寺村・渡辺(1999)⁴⁾によると、劇あそびの導入で絵本を用いる絵本の世界を再現している。また、家庭場面

においても絵本を介した親子のやり取りが推奨されている。1992年に英国で始まったブックスタートが、2000年にわが国に紹介され、2001年には、世界で2番目にブックスタート活動が始まっている。「赤ちゃん和絵本を介して楽しいひとときをわかちあおう(Share books with your baby.)」という活動の基本理念のもとに、わが国では、乳児期からの親子の親密な絆とコミュニケーションを願い、絵本を通じたひとときを全ての子どもに保証することが目指されることになった(菅井, 2012)⁵⁾。

以上のように、保育場面、家庭場面問わず絵本は乳幼児の発達にとって重要なものである。

2. 方法

2-1. 対象園

本研究を行うにあたって、N市内の幼稚園、認定子ども園の9園にアンケートを送付した。アンケート配布する前に各園に電話で卒業論文の内容を知らせ、事前に承諾があった園に対して送付をした。またその際、アンケート使用目的として、研究以外には使用しないことを伝え、届いたアンケートを見て、「答えない」と判断しても構わないことも申し添えた。

2-2. 期間

アンケート実施期間は20XX年5月10日～7月2日の約2ヶ月間である。回答があったのは5園であり、合計で41部のアンケートが集まった。

2-3. アンケート内容

実際に各園に送ったアンケートは5領域を育てるために園で取り組んでいる事柄と、各領域を身につけさせるための絵本の選定について、そして、自由記述欄を設けた。

3. 結果と考察

大きく①5領域を育むための各園の取り組みについての特徴と気付き、②各領域に共通した絵本と複数領域であげられた絵本、③年齢ごとの違いの3つの視点から分析をした。①については、どの園でもリトミックや遊びなど各々の教育方針に伴い、5領域を育てていることがわかった。本研究では、主に②及び③についての結果を述べる。

②の複数領域で挙げられた絵本をまとめたものは、

Table 1 である。複数の領域に当てはまる絵本がある中で、「健康」の領域は他の領域と一緒に挙げられていないことが分かる。

Table 1 5 areas in picture books

	健康	人間関係	環境	言葉	表現
はらぺこあおむし			○		○
おおきなかぶ			○	○	○
もこもこもこ				○	○
くれよんのくろくん		○			○
びよーん				○	○
14ひきのあきごほん		○		○	
おへんじはーい		○		○	
ころころぼほぼほ				○	○
ドオン				○	○
だるまさんが				○	○
だるまさんと				○	○
だるまさんの				○	○
こんにはあそぼうよ		○		○	

「健康」の領域は清潔や食事など、身の回りのことに関する内容の絵本が多いため他の領域を育む対象となりにくいことが推測される。また、「言葉」と「表現」の領域で挙げられる絵本が多い傾向がみられる。理由としては、どの絵本にも言葉があり、全ての絵本は言葉の領域に繋がること、絵本を通して様々な表現に触れることが子どもの表現の発達へと繋がっていくからだと推測される。

自由記述欄より、「各領域を育むために 1 冊の絵

本を選ぶことはしたことがない」また、「難しい」といった旨を記述している保育者が 5 名いた。このことから、絵本は複数の領域を兼ねていることが分かる。

③について、年齢と領域ごとにまとめ直したものが Table 2 である。() の数字は絵本が挙げられた数を表している。0~2 歳児の絵本の特徴として、排泄や歯磨き、思いやりの大切さについて分かりやすく伝えられるものが選ばれている。また、明快な絵とリズムカルな言葉で音から物を認識する絵本もある。坂田 (2017) ⁶⁾ によると、0~2 歳児の絵本の特徴は、繰り返し言葉や、擬音語・擬態語などの楽しい言葉が多いことや、簡単なストーリーがある絵本、子どもにとって身近なものが描かれている絵本、大きくはっきりした絵や遊びにつながる絵本であるとしている。遊びにつながる絵本とは、Table 2 では、「かおかおどんなかお」が当てはまる。この絵本は、楽しい顔、悲しい顔、笑った顔、泣いた顔、いたずらな顔など様々なこの表情を大胆にデフォルメして切り絵で表現したものである。この絵本を見ながら、子ども達が真似をして遊ぶことが推測される。また、1 歳では認知能力が未発達のため、絵本の内容を理解することが難しいとしており、保育者も自ずと耳に残る言葉や親しみのある絵が載っている絵本を選んでいくことが推測される。

Table 2 Picture books for different ages

	0~2 歳児	3~5 歳児	なし
健康	うんぴ・うんによ・うんち・うんご はははのはなし おしっこしーできちゃった (2)	うんぴ・うんによ・うんち・うんご (2) はははのはなし (2) おおきくなるっていうことは (2) むしばあちゃん (3) どうぶつしんちょうそくてい (2) どうぶつたいじゅうそくてい (2)	はははのはなし
人間関係	どうぞのいす どんなにきみがすきだかあててごらん	どうぞのいす (2) しんせつなともだち どんなにきみがすきだかあててごらん	しんせつなともだち
環境	しずくのほうけん	ぼく、だんごむし (2) しずくのほうけん わたしがぼくがちきゅうのためにできる 10 のこと	わたしがぼくがちきゅうのために できる 10 のこと
言葉	じゃあじゃあびりびり	あいうえおうさま (2) へんしんトンネル (4) じゃあじゃあびりびり	へんしんトンネル
表現	かおかおどんなかお (2) わたしのワンピース	わたしのワンピース あおくとときいろちゃん	あおくとときいろちゃん

3～5歳児の絵本の特徴は、少し長いストーリー性のある絵本や、現実の世界から生まれる絵本だけでなく、想像力が育まれる絵本が選ばれる傾向がみとれる。前田ら(2011)⁷⁾によると、3歳児での物語性のある絵本の特徴は、「ハッピーエンド」や「想像力を育てる」ことをテーマとした絵本が多く、また、発達心理学の面から子どもをみた場合でも、3歳後半から4歳前半にかけて、できごとを組み合わせる言葉表現できるようになることもストーリー性の絵本が選ばれると考えられる。さらに、4～5歳児では3歳児よりさらに複雑なストーリーが理解でき、問題意識も明確になることに伴って単なるハッピーエンドでは物足りなくなり「勸善懲惡」ものが増えることも明らかとなった。ごっこ遊びの中で、テレビの中のヒーローものを真似する様子が見られるのも、ちょうどこの時期からである。

4. 今後の課題

本研究を行うことで、乳幼児期において絵本は1つの領域だけに該当するのではなく、複数の領域を兼ねていることがわかった。0～2歳児、3～5歳児と大きく2つの年齢に分け分析を行ったが、発達段階に応じて細かく年齢ごとに絵本の特徴を調べてみることも有意義であろう。また、今回は5園のみの調査となったが、さらに多くの園の状況を把握することも重要であり、調査の結果を実際の保育現場に還元し、他園の取り組みや、どのような絵本を選んでいるかについて周知をしていくことも忘れてはならない。更に家庭での育児においても、本研究の内容について伝えることで参考となることもあると考

える。

謝辞

アンケート調査にご協力いただきました、認定こども園の先生方に心から御礼を申し上げます。

文献

- 1) 片山由美, 川井薫栄, 高橋美和子, 古橋エツ子: 幼稚園教育における5領域の総合的な指導への一考察—動物の世話をとおして—, 花園大学社会福祉学部研究紀要, 17, 13-21(2009)
- 2) 開仁志: 保育内容5領域と育みたい資質・能力の関係についての考察, 金沢星陵大学人間科学研究, 11, 2, 59-64(2018)
- 3) 緩利真奈美: 幼児教育カリキュラムにおける「絵本」研究の課題, 現代教育研究紀要, 19-25(2016)
- 4) 寺村輝夫, 渡辺めぐみ: 保育現場における絵本の役割(その3), 文京女子大学研究紀要, 1, 1, 113-127(1999)
- 5) 菅井洋子: 乳幼児期の絵本場面における共同活動に関する発達研究—共同注意の指さしからの探求—, 風間書房(2012)
- 6) 坂田季穂: 絵本に関する保育計画について—保育の場での絵本の役割と指導の要点—, 中村学園紀要, 1, 191-194(2017)
- 7) 前田桂子, 上田平拓也, 鶴田真弓: 人気の絵本における対象年齢別内容分析—子どもの発達に関連して—, 宇部フロンティア大学人間社会学部紀要, 2(1), 29-44(2011)